

県内の指定廃棄物は

どう保管されてるの？

千葉県内には 3687 t の指定廃棄物 (8000 b q/k 超) があります。これまで手賀沼下水最終処理場内に一時保管で持ち込まれた 526 t はそれぞれの市に戻りました。流山市・柏市・松戸市の状況を視察しました (8/26)。

流山クリーンセンターには、

指定廃棄物が 582 t (フレコンパックで 1186 袋)、2000~8000 b q で最終処分場へ持ち込めないものが 568 t (142 7 袋) 合わせて 1150 t の放射性廃棄物がテント内やスロープ下、貨物コンテナで建物のわきに置かれていました。一時保管の為ボックスカルバートを 2 基作ってテントから移し替えるとのこと。30 cm コンクリートなので放射線の遮蔽率は 99% のことです。それぞれのフレコンパックも新しいフレコンに袋ごとに入れて保管。3 段済み 4 列で計 550 t。12 月末までに終了し密閉したいとのことでした。貨物コンテナで置かれている 27 t は当初 28000 b q/k のものですがこれはそのままのこと。コンテナの周辺空間線量は $0.61 \mu s v/h$ ありました。より安全な方法を考えてほしいものです。



指定廃棄物のあるテントの前で

柏南部クリンセンター

柏市では、当初 70800 b q/k という高い値の廃棄物を出し、北部クリンセンターに 494 t、南部クリンセンターに 493 t 最終処分場に 76 t の指定廃棄物を仮保管。

現在は焼却の仕方も検討し樹木は週 2 回から月 2 回へ減らすことで 2000 b q/k 以下になっているとのこと。

南部クリンセンターでは駐車場のところにボックスカルバート (幅 5.7m 高さ 3.5m 奥行き 48 m) をつくりその中に 373 t (ドラム缶で 1824 本) の保管、30 cm のコンクリートで密封。1 基分の建設費用は 5700 万円とのこと。遮蔽率 99%。

清掃工場建屋内には 120 t (フレコンパック 195 袋) の廃棄物を建物の隙間隙間を見つけては鉛入り遮蔽壁をつくって隔離してました。鉛入り遮蔽壁は 50% の遮蔽率。

廃棄物対策として平成 23 年~25 年の間 11 億 3000 万円使ったとのこと。国が 4 億円東電が 7 億円負担したが人件費・燃料費を東電は賠償として認めないとのことです。(東電は原発事故の責任者だと思っていないのでは??)

松戸クリンセンター

松戸市は指定廃棄物 (924.14 t) をコンクリートボックスの中に 117.16 t、建物の中にフレコンパックで積んで 806.98 t を保管しています。

平成 26 年までは野積み状態であったが平成 27 年 1 月に建物が出来上がった。しかし建物の放射線遮蔽率は効果なし。そこでフレコンパック 1 袋 (600~



ボックスカルバート

700k) を1つのコンクリートボックスに入れ 192 個のコンクリートを遮蔽代わりに建物の周りに積んでありました。15cm巾のコンクリートなので遮蔽率は89%ほど。コンクリートボックスは1個当たり30万円だそうです。

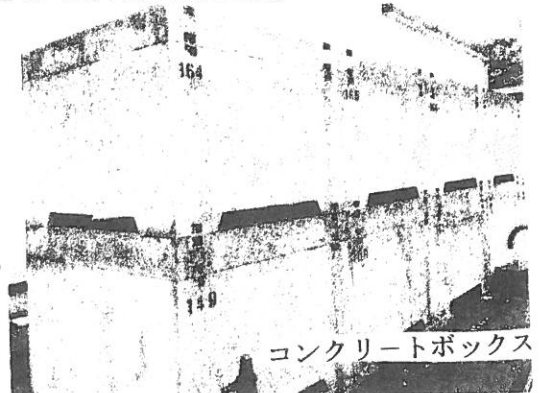
1000~8000b q/kの廃棄物も建屋の中で保管しているとのこと。

当初30900b q/kの高い値の廃棄物でもあったが今は1000b q/k前後とのこと。

それぞれの市は一時保管とはいえコンクリートボックスやボックスカルバートで少しでも安全な状態で保管しようとしていました。(本当はこの苦勞を事故を起こした東電がすべきなのに・・・)

千葉県の手賀沼下水汚泥の最終処理場には、

下水汚泥焼却し8000b q/kを超したものが550tあります。4棟のテントの中に二重のフレコンパックで保管しています。県としてはボックスカルバート等をつくってより安全な対策をとる考えはないようです。風速28m対応のテントで大丈夫なのか？不安になります。



コンクリートボックス